

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>E 0 4 F 15/02  
15/00

識別記号

庁内整理番号

B 7805-2E  
S 7805-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数17(全 8 頁)

(21)出願番号 特願平4-190256

(22)出願日 平成4年(1992)6月25日

(71)出願人 000010010

ロンシール工業株式会社  
東京都墨田区緑四丁目15番3号

(71)出願人 592142441

株式会社加治屋商会  
福岡県福岡市南区皿山3丁目5番15号

(72)発明者 平山 勲

茨城県土浦市東中貫町5-3 ロンシール  
工業株式会社技術研究所内

(72)発明者 加治屋 寛

福岡県福岡市南区皿山3丁目5番15号 株  
式会社加治屋商会内

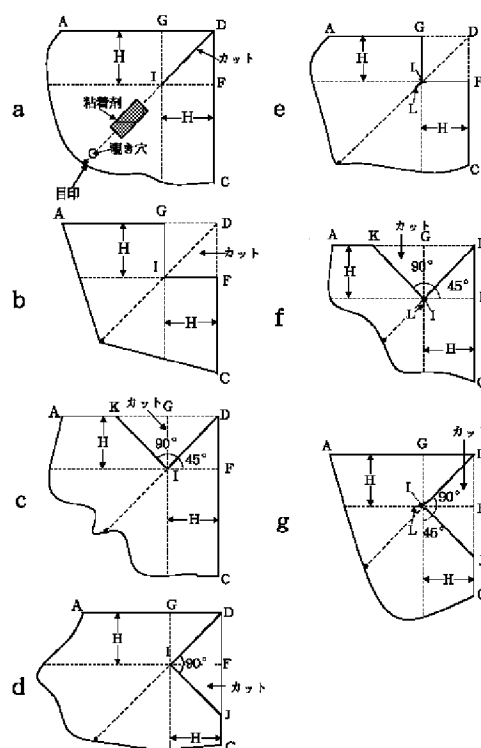
(74)代理人 弁理士 吉田 勝広 (外1名)

(54)【発明の名称】 役物パターン及び床敷体の施工方法

(57)【要約】

【目的】 従来技術の問題点を解決し、床面が複雑な形状であっても、又、熟練者でなくても床敷体を正確且つ容易に床面に貼着する技術を提供すること。

【構成】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、線分IDが切断線であり、線分GIと線分FIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン、及び該役物パターンを使用する床敷体の施工方法。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、線分IDが切断線であり、線分GIと線分FIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項2】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、矩形GIFDが切り取られており、線分GIと線分FIの板状体内の延長線部分には折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項3】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、線分IDの点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DAとの交点をKとし、2等辺三角形IDKが切り取られており、線分GIの板状体内の延長線部分と線分FIとその板状体内の延長線部分には折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項4】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DCとの交点をJとし、2等辺三角形IDJが切り取られており、線分GIと板状体内の延長線部分と線分FIの板状体内の延長線部分には折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項5】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をI

とし、点Iが線分DIの延長線上に若干移動した点をLとし、先端Lが尖った略矩形LGDFが切り取られていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項6】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DAとの交点をKとし、点Iが、点Iより線分GIの延長線線上に若干移動した点をLとし、先端Lが尖った略2等辺三角形LDKが切り取られており、且つ線分IFには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項7】 線分DAと線分DCとからなる内角が90°の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DCとの交点をJとし、点Iが、線分FIの延長線上に若干移動した点をLとし、先端Lが尖った略2等辺三角形LDJが切り取られており、且つ線分IGには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項8】 頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAと平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gから線分DCに対して平行に延びる直線と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、線分IDが切断線であり、線分GIと線分FIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項9】 頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAと平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gから線分DCと平行に延びる線分と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、矩形GIFDが切り取られており、線分EIと線分MIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項10】 頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAと平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gか

ら線分DAと平行に延びる直線と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DAとの交点をKとし、2等辺三角形IDKが切り取られており、線分EFと線分MIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項11】 頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAに対して平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gから線分ABと平行に延びる直線と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DCとの交点をJとし、2等辺三角形IDJが切り取られており、線分EIと線分GMには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項12】 頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAに対して平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gから線分ABに対して平行に延びる直線と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、点Iが、線分IB上に若干移動し点をLとし、点Lが尖った略矩形GLFDが切り取られていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項13】 頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAに対して平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gから線分ABに対して平行に延びる直線と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DAとの交点をKとし、点Iが、線分IM上に若干移動し点をLとし、点Lが尖った略2等辺三角形LDKが切り取られており、且つ線分IFには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン。

【請求項14】 頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAに対して平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gから線分ABに対して平行に延びる直線と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、点Iから線分IDに対して垂直に延びる線と線分DCとの交点をJとし、点Iが、線分IE上に若干移動した点をLとし、点Lが尖った略2等辺三角形LDJが切り取られており、且つ線分IGには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に

使用する役物パターン。

【請求項15】 被覆される床敷体の裏面に対向する面に少なくとも粘着剤層が形成されている請求項1～14に記載の役物パターン

【請求項16】 多角形の床面に、壁面に沿った立ち上げ部を設けて床敷体を施工するに際し、床面と壁面との間の出隅角又は入り隅角の位置に請求項15に記載の少なくとも1種の役物パターンのI点を押し当て、該役物パターン上に床敷体を被覆させて役物パターンの粘着剤層と接着させ、しかる後床敷体を裏返して役物パターンの一部の外周線に沿って床敷体を裁断し、役物パターンを剥離し、裁断された床敷体を床面及び壁面に固定することを特徴とする床敷体の施工方法。

【請求項17】 床面と壁面との間にR面木が施されている多角形の床面に、壁面に沿った立ち上げ部を設けて床敷体を施工するに際し、床面と壁面との間の出隅角又は入り隅角の位置で、2方向から延びている2本のR面木の交点のR面木上の上端部乃至上から2/3の間の位置に、請求項15に記載の少なくとも1種の役物パターンのL点を押し当て、該役物パターン上に床敷体を被覆させて役物パターンの粘着剤層と接着させ、しかる後床敷体を裏返して役物パターンの一部の外周線に沿って床敷体を裁断し、役物パターンを剥離し、裁断された床敷体を床面及び壁面に固定することを特徴とする床敷体の施工方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、床敷体施工用役物パターン及び床敷体の施工方法に関し、更に詳しくは、室内等の床面に床敷体を貼着施工する際に有用な役物パターンとこれを用いる簡便な床敷体の施工方法の提供を目的とする。

【0002】

【従来の技術】従来、住居、事務所、学校、病院等の多くの建造物の床面には、合成樹脂製の長尺床敷体が貼着され、床面の保護、クッション性、室内の装飾等の目的に広く使用されている。上記建造物の床面が矩形等の如く単純な形状である場合には、床敷体を床面に整合させて貼着することはそれほど困難ではないが、図2にその一部を示す様に床と壁との境界であって、多くの出隅（a'）及び入隅（b'～d'）が存在する場合、特に台所、厨房、クリーンルーム等の場合には、床敷体を床面から壁面に沿ってある程度の高さに立ち上げることが必要である。しかしながら、該床面及び壁面とからなる出隅及び入り隅の形状に正確に合わせて長尺床敷体を裁断することは非常に困難である。従来は熟練者の経験と感と技能により、床敷体を床面と壁面との境界のラインに押し当てて合わせてカッターナイフ等により裁断して施工していた。

【0003】

【発明が解決しようとしている問題点】しかしながら、熟練者であっても出隅及び入り隅部の床敷体のコーナー部を正確な形状に裁断することは容易ではなく、ましてや現在の様に熟練者の少なくなった時代には、床敷体の施工が非常にコスト高になるという問題が顕著になってきた。従って本発明の目的は、上記従来技術の問題点を解決し、床面が複雑な形状であっても、又、熟練者でなくても床敷体を正確且つ容易に床面に貼着する技術を提供することである。

【0004】

【問題点を解決する為の手段】上記目的は以下の本発明によって達成される。即ち、本発明は、線分DAと線分DCとからなる内角が $90^\circ$ の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、線分IDが切断線であり、線分GIと線分FIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴とする床敷体施工に使用する役物パターン等、及び多角形の床面に、壁面に沿った立ち上げ部を設けて床敷体を施工するに際し、床面と壁面との間の出隅角又は入り隅角の位置に前記の少なくとも1種の役物パターンのI点又はI点～L点上の点を押し当て、該役物パターン上に床敷体を被覆させて役物パターンの粘着剤層と接着させ、しかる後床敷体を裏返して役物パターンの一部の外周線に沿って床敷体を裁断し、役物パターンを剥離し、裁断された床敷体を床面及び壁面に固定することを特徴とする床敷体の施工方法である。

【0005】

【作用】本発明の役物パターンを使用することによって、床面と壁面の出隅及び入り隅部が複雑な形状であっても、又、熟練者でなくても床敷体を正確且つ容易に床面及び壁面に貼着することが出来る。

【0006】

【実施例】次に図面に示す実施例に基づいて本発明を更に詳細に説明する。本発明の役物パターンの1例は、その平面図である図1に示す様に、例えば、aの場合、線分DAと線分DCとからなる内角が $90^\circ$ の頂点を少なくとも1個有する多角形又は曲線を含む任意の形状の板状体あって、頂点Dから線分DA上の距離Hにある点をGとし、頂点Dから線分DC上の距離Hにある点をFとし、点Gから線分DCに平行に延びる線と点Fから線分DAに平行に延びる直線との交点をIとし、線分IDが切断線であり、線分GIと線分FIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴としている。

【0007】又、他の実施例の役物パターンは、図1b～gに示す様に、上記図1aと同様な板状体において、矩形GIFDが切り取られており(b)、又、2等辺三角形IDKが切り取られており(c)、又、2等辺三角

形IDJが切り取られており(d)、又、略矩形IGDFが切り取られており(e)、又、略2等辺三角形LDKが切り取られており(f)、又、略2等辺三角形LJDが切り取られている(g)形状を有している。又、好ましい実施態様では、更にその少なくとも一方の面の少なくとも一部に粘着剤層、覗き穴、目印等が設けられている。粘着剤層の作用効果は後述の通りであり、覗き穴又は目印は、床敷体の施工に際し床面に仮に設けた基準線(図2a'参照)に役物パターンを正確に位置合わせする作用効果を奏する。上記図1に示した実施例において、板状体の外周を構成する線分AD及びDC以外の外周線は、図示の様に直線でも曲線でもよいが、この外周線が点Iより外側にあることは当然である。

【0008】次に本発明の更に好ましい実施態様を説明する。これらの実施態様は、その平面図と使用方法を示す図2及び図3に例示されている。その1例(a)は、頂点A、B、C及びDからなる矩形板状体であって、線分ABの頂点Aから距離Hにある点Eから線分DAと平行に延びる直線が線分DCと交わる点をFとし、線分DAの頂点DからHの距離にある点Gから線分DCに対して平行に延びる直線と線分BCとの交点をMとし、上記線分EFと線分GMとの交点をIとし、線分IDが切断線であり、線分GIと線分FIには折り曲げ用の切り込みが設けられていることを特徴としている。

【0009】又、他の実施例の役物パターンは、図2及び図3に示す様に、上記図2aと同様な板状体において、矩形GIFDが切り取られており(図2b)、又、2等辺三角形IDKが切り取られており(図2c)、又、2等辺三角形IDJが切り取られており(図2d)、又、略矩形IGDFが切り取られており(図3b)、又、略2等辺三角形LKDが切り取られており(図3d)、又、略2等辺三角形LJDが切り取られている(図3e)形状を有している。又、好ましい実施態様では、更にその少なくとも被覆される床敷体の表となる面の少なくとも一部に粘着剤層が設けられ、又、線分IDの延長線上の基準線に覗き穴や、基準線の板状体の端部に基準点を設けることも可能である。粘着剤層の作用効果は後述の通りであり、覗き穴は床敷体の施工に際し床面に仮に設けた基準線に役物パターンを正確に位置合わせする作用効果を奏する。又、図2及び図3の実施例では、板状体の頂点Bを予め床面に付された基準線に合わせることによって、役物パターンを正確に位置合わせすることが出来る。

【0010】上記役物パターンは、上記の夫々の形状を有する様に、厚紙、薄板、プラスチックシート、金属シート等の如く有る程度の強度を有するシート状物を裁断して形成することが出来る。最も好ましい材料は、既に裁断して使用した床敷体から生じる端切れであって、これらの端切れを使用するのが最も経済的である。裁断自体は所定の抜き型を作成しておくのみで、極めて容易に

大量生産可能である。尚、図2の実施例において一枚の矩形の板状体の2隅以上に、図2a～d及び図3b、d、eの主要な隅形状を幾つか組み合わせて形成して、多目的な役物パターンとすることも出来る。又、折り曲げ用の切り込みは板状体が折り曲げ容易で切り離されない程度の深さであればよく、例えば、板状体の厚みの1/3～3/4程度の深さに単純に切断、V字カット、U字カットして設ければよい。

【0011】上記役物パターンのサイズについては特に限定されず、床敷体を貼着すべき床面のサイズに応じて調整すればよい。但し、一般的には板状体は、矩形、特に正方形状であることが良く、例えば、好ましい矩形の1例のサイズとしては、一辺の長さが200～500mmで、Hの長さが50～200mm程度であり、厚みは2～3mm程度である。ここでHは床面に立ち上げ貼着される床敷体の高さに相当する。又、上記役物パターンは、使用時には、被覆される床敷体の表となる面に粘着剤層を有することが必要であるが、該粘着剤層は予め形成しておいてもよいし、又、施工場所や他の場所或は使用時に両面粘着テープ等を貼着して形成してもよい。これらの粘着剤層は、粘着剤を表面に塗布乾燥した後、その表面に離型紙を貼着させておいてもよいし、上記の如き両面粘着テープを用いてもよい。又、両面に粘着剤層を形成する場合には、床面に接する面の粘着強度は反対面に形成する粘着剤層の粘着強度よりも小さくしておくことが必要である。この様にしておけば、床敷体の貼着施工に際し役物パターンが床面でずれることがない。

【0012】次に上記役物パターンを用いる本発明の床敷体の施工方法を図2の例を代表例として説明する。図2a'～d'の如き出隅及び入り隅に、役物パターンa～dを用いて床面と壁面とのコーナー部に立ち上げを有する施工方法を模式的に示す。先ず、出隅a'を施工する場合には役物パターンaを使用し、被覆すべき床面と壁面の面積におおよそ対応し、且つ10～100mm程度の端切れ発生する形状に床敷体(不図示)を粗く裁断する。この床敷体の各コーナー周辺には接着剤が塗布されていない(感熱接着剤等の如く常温では接着しない感熱接着剤等であれば塗布されていてもよい)が、各コーナーの周辺部以外の床敷体の中央部分では床敷体は床面に接着固定されている。

【0013】上記の状態において、次いで床面の直角な出隅a'の部分に被っている床敷体を持ち上げ、出隅a'の床面に上記役物パターンaを置き壁に押し当てて役物パターンのI点が床面より壁面に沿って若干立ち上がる様に壁面に押し当てる。この時役物パターンaの線分GI及び線分IFには折り曲げ等の切り込みが背面に設けられているので、三角形部分GID及びIDFは壁面に沿って立ち上がる。この際床面に予め正確な基準線を設けておき、この基準線に役物パターンの頂点Bを当てるか、覗き穴から基準線が見える様にすることによ

て、左右の立ち上げ部を正確に左右対称形とすることが出来る。この状態で床敷体を役物パターン上に被せ、床敷体と役物パターンaとを接着させる。接着後床敷体の出隅a'の部分を部分的に折返し、役物パターンaの線分ID部分と線分DCの延長線部分と線分DAの延長線部分の床敷体を必要に応じて直線定規等を用いてカッターナイフ等の適当な裁断手段で床敷体を裁断する。

【0014】この様にすることによって、出隅a'に正確に一致する床敷体の形状とすることが出来る。続いて役物パターンを剥離した後、出隅a'では接着剤を用いて床敷体を床面及び壁面に固定する(床敷体の背面に感熱接着剤が予め塗布されている場合には加熱のみで接着する)。この時、床敷体の出隅部分は折り曲がった三角形の不足部分が生じる。この部分には敷接された床敷体の切れ端等の余り部分を用い、この形状(中央部が折り曲がった2等辺三角形)に合わせて補充する。この補充部分と床敷体とは溶接により接合させることが好ましく、点Iが出隅角より若干立ち上がっていると溶接がし易くなり、施工性が良くなる。

【0015】又、図2b'に示す入り隅部には、役物パターンbを用い、上記と同様な操作を経由して床敷体が床面及び壁面に貼着される。この場合には図2b'に示す様に左右の壁面と壁面との境界部が溶接部(目地)となり、溶接部が目立たなくなり見映えが良いという長所を有するが、90°の角度で溶接されるので互いの床敷体同士を溶接するのが難しいという施工上の問題も有する。又、図2c'又はd'主視線が図示の方向である場合、夫々c又はdの役物パターンを用いて施工することが出来る。主視線とは人の視線が集まり易い方向(面)のことを云い、例えば、その部屋の出入り口に立って、部屋の中を見た目線等のことで、c'又はd'は夫々主視線から目立たない面側の壁面部に溶接部がくる様にc又はdを選択して施工する。c'又はd'の方法では溶接部分が壁面の平面部分で行えるので溶接施工性が良いという長所を有する。

【0016】図2bの役物パターンを使用した場合、被覆された床敷体は、役物パターンbの点AGIFCを結ぶ線に沿って切断され、更に必要に応じて線分AG又はFCの延長線部も直線的に切断する。図2cの役物パターンを使用した場合、点AKIDCを結ぶ線で、又、図2cの場合は、点ADIJ Cに沿って床敷体を切断する。以上の如く、幾つかの役物パターンを組み合わせると出隅及び入り隅を床敷体によって簡便且つ正確に立ち上げ被覆及び固定することが可能となる。

【0017】図3に本発明の別の実施例を示す。図3aは、床面と壁面とのコーナーがR面木等によってR面を形成している場合を示している。かかるR面に図2b'～d'に示す如く床敷体を立ち上げ施工する為の役物パターンとその施工方法を以下に説明する。R面木は約30mmの半径Rの曲面を有する断面図3cの様な形状の

もので、床面と壁面との境界部（入り隅部）に用いられるもので、特にコンピューターやＩＣ工場等のクリーンルームにおいて使用されることが多い。クリーンルームでは、埃や塵が全くない状態が好ましいが、床面と壁面との間の入り隅部内角が $90^\circ$ の状態では、その部分に埃や塵が溜り易いという不都合が生じ、又、入り隅部が $90^\circ$ では部屋の空気の流れが乱れ易いということ等から、入り隅部にＲ面木が用いられる。このようなＲ面木が設置されたクリーンルーム等の部屋に床敷体を立ち上げて施工を行う場合、床敷体の溶接部がだぶつきなく綺麗に仕上がる為、図３に示す様な点Ｌが線分ＩＢ上に若干移動し、点Ｌが尖った夫々の形状に切断された役物パターンを使用する。

【００１８】Ｒ面木のある部分の床敷体の施工は、基本的には前記Ｒ面木のない場合の施工方法と同様であるが、特に注意する点は、切り込まれた点ＬはＲ面木の上端部乃至上から $2/3$ の間の位置に来る様に立ち上がる様に合わせて施工を行う点である。上端部より上に点Ｌを合わせると接合するシートにだぶつきが生じ、又、上から $2/3$ の位置よりも下に点Ｌを合わせると接合するシートが不足したりして好ましくない。特に好ましくは上から $1/3$ の位置に点Ｌを合わせるのが良い。又、Ｒ面木のある場合はＲ面木との接触部分には折り曲げ用の切り込みを設ける必要はない。Ｒ面木の半径は一般的には $10\sim 50\text{mm}$ である。図３ｂは図２ｂに相当する役物パターンを示しており、頂点Ｉが線分ＩＢ上に若干移動し、Ｌ点が尖った形状の略矩形ＧＬＦＤが切り取られている。

【００１９】かかる役物パターンは、図３ｃに示す如くして形成することが出来る。即ち、施工すべき面のコーナーの曲率を $R(\text{mm})$ とした場合、頂点ＢＤの対角線 $c$ の両側に対角線 $c$ から $R=R'$ の位置に平行線 $d$ 及び $e$ を引き、一方、直線 $a$ から $R$ の距離に平行な線 $a'$ を引き、且つ線 $b$ から $R'$ の位置に平行線 $b'$ を引く。線 $a'$ と線 $d$ との交点 $o$ 、及び線 $b'$ と線 $e$ との交点 $o'$ を中心とする夫々半径 $R$ の半円を描き、該半円同士の接点を $L$ とする。この様に線引きされた矩形ＡＢＤＣから、点Ｌが尖った形状の略矩形ＧＬＦＤを切り取ることによって形成される。上記役物パターン $b$ は図２ $b'$ に相当するＲ面に対して前記と同様にして使用される。図３に示す役物パターン $d$ 及び $e$ は、図２ $c$ 及び $d$ に相当しており、前記と同様にＲ面を有するコーナー部に床敷体を施工する場合に同様に使用され、立ち上げ部を有する床敷体が正確に床面及び壁面に貼着施工される。

【００２０】以上の説明では、各コーナーの裁断に続いて各コーナー毎に順次床敷体を床面に接着する場合を説明したが、場合によっては、床敷体を上記の如く各コーナーに合わせて裁断した後に最後に全体を床面に接着固定してもよく、施工場所の条件を考慮していずれか適当な方法を採用すればよい。又、以上の説明では、コーナー周辺部以外は床敷体を予め床面に固定した状態でコーナー部の施工を行ったのは、施工中に床敷体がずれるのを防止する為である。従って、施工条件によっては、例えば、狭い場所等では、床面に合わせて上記の様に正確に床敷体を裁断後に、これを床面に貼着することも出来、本発明はかかる態様も包含する。

【００２１】以上で使用する床敷体は、多くの場合に軟質合成樹脂シートであるが、有る程度の可撓性を有するものである限り、合成樹脂シートに限定されず、例えば、織物や編物製の床敷体であってもよい。又、約物パターンは、矩形、特に正方形が最も好ましく、正方形である場合には、使用する役物パターンの対角線上の頂点を基準点とすることが出来る。又、役物パターンの最も好ましい素材は敷設される床敷体と同質の物で、軟質塩化ビニルシート、エチレン・酢酸ビニル共重合体シート、合成ゴムシートで、厚さは $2\sim 5\text{mm}$ 程度が良い。これらの材料は床敷体に追隨して折り曲がる様な可撓性を有するものが特に良い。例えば、ポリ塩化ビニル製の正方形のタイルを使用すると、簡単に本発明の役物パターンを作製することが出来る。又、本発明は建造物の床面の施工に限定されず、公園等の露天における場所であってもよいのは当然である。

【００２２】

【効果】本発明の役物パターンを使用することによって、床面と壁面の出隅及び入り隅部が複雑な形状であっても、又、熟練者でなくても床敷体を正確且つ容易に床面及び壁面に貼着することが出来る。

【００２３】

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の実施例の役物パターンの形状を説明する図。

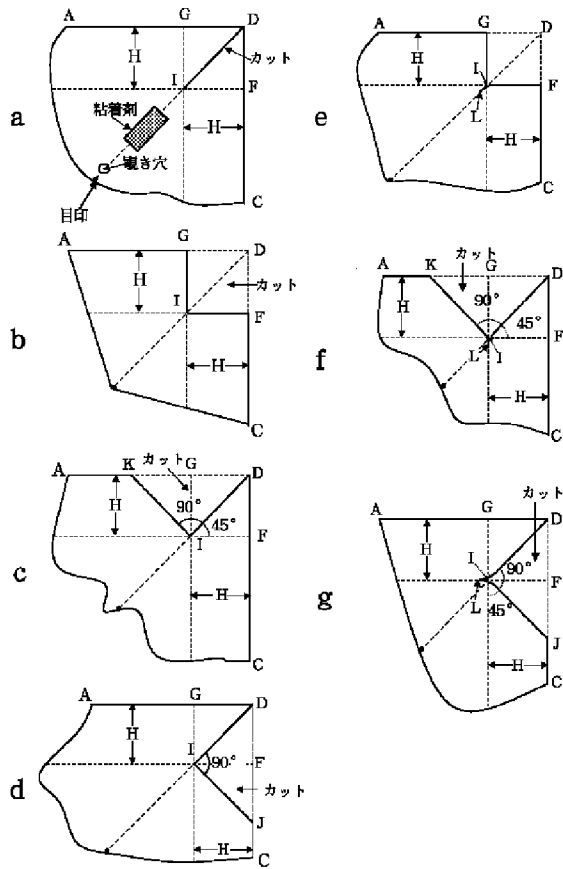
【図２】本発明の実施例の役物パターンとその施工方法説明する図。

【図３】本発明の実施例の役物パターンとその施工方法説明する図。

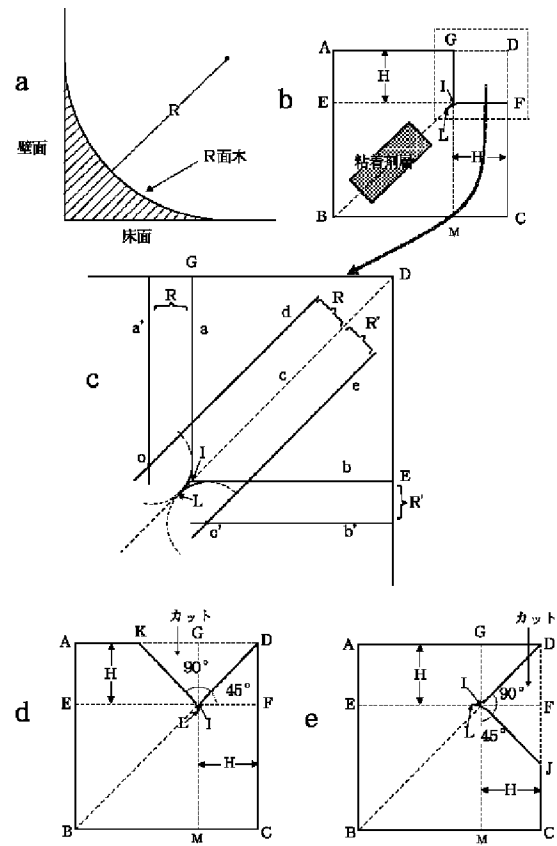
【符号の説明】

$a\sim g$ ：役物パターン

【図1】



【図3】



【図2】

